

令和元年度 横浜市立四季の森小学校 学校だより

このまちに生き、共に輝く子

ねばり強く取り組む子 思いやりのある子 命を大切にする子 地域に愛着をもつ子 社会への視野を広げる子



四季の森

10月号

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/shikinomori/>

スポーツの秋

校長 笹原 洋子

朝夕は涼しくなり、めっきり秋らしくなりました。

来年に東京オリンピック開催を控え、8月頃からいろいろなスポーツの世界選手権等が、連日 TV や新聞で大きく取り上げられています。

今、横浜ではラグビーW杯（ワールドカップ）が開催されています。ラグビーW杯は、夏のオリンピック、サッカーW杯と並んで、『スポーツイベントのビッグ3』と言われるものの1つで、世界中の多くの人々が注目するイベントです。

9月13日（金）に本校に実業団のラグビー選手が来てくださり、3年生とタグラグビークラブの児童が交流を行いました。子どもたちはラグビー選手の体の大きさに驚くと同時に、ラグビーというスポーツにも関心をもったようでした。



ラグビーはイギリスが発祥のスポーツです。ラグビーの試合では、監督はグラウンドにおらず、スタンドにいるのです。プレーごとに監督等がサインを出す野球などとは異なり、試合が始まったら、ほぼすべてが選手に任せられます。選手同士がコミュニケーションをとって、作戦を考え、一人ひとりの判断に多くのことが委ねられるのです。当然、失敗も起こります。それをカバーしたり、励ましたりするのも選手同士です。ラグビーでよく言われるのは『One for all, all for one.』という言葉です。「一人ひとりがそれぞれの役割をはたそうと頑張り、みんなで勝利という目的に向かって努力する。」という意味が込められているそうです。

もう一つ、ラグビーでは『ノーサイドの精神』ということも、よく言われます。これは、「試合中にいくら興奮しても、試合が終われば、敵も味方もなく互いを尊重する。」という精神のことです。そんな精神があるので、ラグビーのスタンドは応援席がないのです。すぐ隣に相手チームを応援している人がいることもあり、スタンドでも、試合が終われば相手チームを応援していた人とも、互いの健闘を称えあっているそうです。



ラグビーのようなチームスポーツは、プレーするときはもちろん、観戦するだけでも、様々な人の思いを考えることができます。これからはスポーツの秋。ご家族でチームスポーツを行ったり観戦したりしながら、人間関係のあり方や、それぞれの状況での心の動き等を考えるのも、スポーツの楽しみ方の1つです。